

令和7年2月3日

保護者の皆様

碧南市立棚尾小学校
校長 小島 広明

令和7年度 5年生・6年生における学年担任制の導入について

晩冬の候 日頃は本校の教育活動にご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本校では、これまで、学習指導の充実に向けて高学年を中心に「教科担任制」を進めてきています。今回、教科担任制を発展させ、教科指導だけでなく、毎日の朝の会や帰りの会、給食指導などの学級担任業務も複数の教員で分担する「学年担任制」の導入を、碧南市教育委員会の指導助言を受けながら検討しております。これは、若手教員やベテラン教員、育児等事情のある短時間勤務者、非常勤教員等、複数の教員が連携し、互いに協力し、各々の強みを生かし、補い合いながら学級経営や教科指導を進めていくものです。複数の教員で子どもたちを見取り、学級間の指導の差をなくすことで、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるようにすることをめざしています。

つきましては、現在検討している案を保護者の皆さまにお伝えさせていただき、ご意見、ご質問等をお聞かせ願えればと思います。ご理解、ご協力をお願いいたします。

記

1 めざす効果

- (1) 担任のローテーション及び教科担任制により、学級間での指導の差がなくなり、子どもたちが安心して学校生活を送ることができる。
- (2) 子どもたちや保護者の皆様が相談できる教員が増えることにより、これまでよりも相談しやすい体制をつくることができる。
- (3) 一人一人の子どもを複数の教員で見取ることにより、教員が子どものよさや変化に気づく機会が増えるとともに、子どもたちにとって自分のことを知ってくれている教員が増えることで、安心感をもたせることができる。

2 対象学年

- (1) 令和7年度の5年生、6年生での導入を考えています。
- (2) 特別支援学級及び4年生以下は実施しません。ただし、令和8年度以降の導入学年につきましては、成果と課題を検証しながら検討していく予定です。

3 学年担任制のイメージ

(1) 5年生（3学級）

	1組	2組	3組	○教員3名でチームを組み、3学級を担当する。 ○学年内の教員が教科を分担する「教科担任制」と、専科教員の行う「専科授業」を組み合わせる授業を行う。(6年生も同じ) ○学級担任をローテーションする。
1週目の担任	A先生	B先生	C先生	
2 〃	C	A	B	
3 〃	B	C	A	
4 〃	A	B	C	

(2) 6年生(4学級)

	1組	2組	3組	4組	○教員2名ずつの2チームを組み、 2学級ずつ担当する。 ○学級担任を交互に受けもつ。
1週目の担任	A先生	B先生	C先生	D先生	
2 〃	B	A	D	C	
3 〃	A	B	C	D	
4 〃	B	A	D	C	

4 導入のメリット、デメリットについて

(1) メリット

- ア 学級間での指導上の差がなくなる。
- イ 子どもたち、保護者ともに、場面に応じて相談できる教員が増える。また、自分に合った教員に相談することができる。
- ウ 子どもたち、保護者からの相談を複数で受けることができるため、早期対応しやすくなる。
- エ いろいろな教員とつながり、視野をひろげることができる。
- オ 子どもたちが教科担任制に慣れることで、中学校での学習や生活に順応しやすくなる。
- カ 担任の誰かが出張等で不在時でも基本的な担任業務に支障が出にくい。

(2) デメリット

- ア 担任とのつながりが薄くなる。
- イ どの教員に相談したらよいかわかりづらくなる。
- ウ 教科と教科のつながりが感じにくくなる。

5 Q&Aについて

(Q1) これまでのような担任の先生への相談は、誰にどのようにしたらよいでしょうか？

(A1) その時の担任あるいは学年担当教員に相談してください。相談内容によって、学年内(校内)で共有させていただき、対応していきます。また、その時の担任に相談しにくいような内容の場合は、学年担当教員なら誰に相談していただいても構いません。

(Q2) 担任の先生がローテーションすることで、子どもが不安にならないでしょうか？

(A2) 担任がローテーションすることは、子どもたちにとって新しいことであり、不安を感じることもあるかと思います。少しでも不安を和らげるよう、以下の3点を中心に取り組んでいきます。

- ①学年担当教員同士が子どもにかかわることを確実に情報共有する。
- ②教科担任制を取り入れることで、各学級の情報を把握できるようにする。
- ③子どもたち、保護者からの相談は、学年担当教員の誰でも受け、対応できるようにする。

(Q3) 高学年で導入する理由は何でしょうか？

(A3) 中学校へ進学した際の環境の変化への適応に悩む「中一ギャップ」を緩和することがねらいの一つです。教科担任制では、中学校と同様に、教員が教科を分担することで、授業準備を丁寧に行うことができ、授業の質を上げることが期待できます。また、担任業務をローテーションすることで、子どもたちが相談できる教員が増えます。学年が上がるにつれて、同性の方が相談しやすいケースも増えてきます。このようなことから、高学年での導入を検討しています。

(Q 4) 担当の教員によって学級づくりのやり方に差があると、子どもが戸惑わないでしょうか？

(A 4) まず、年度当初に学年集会を行い、学年としての基本的なルールや共通して指導することなどを子どもたちに伝えます。教員同士では、当番や係活動などについて話し合い、共通して進めることを明確にしておくようにします。学年担任制を進めていくなかで、子どもたちがこれまでよりも多くの教員と出会い、様々な考え方ややり方を経験し、これから中学校への進学や大人になっていく過程で自分の生き方や考え方の糧にしていくことにつながればと考えます。

(Q 5) 子どもたちのことについて、学年担当教員で十分情報共有できますか？

(A 5) これまでも、学年担当教員で子どもたちの学習状況や生徒指導など様々なことについて話し合い、情報共有することに努めてきました。しかし、学年担任制は、教員にとって次の週は隣の学級を担当することになるわけですから、隣の教員の指導や学級経営について一層意識していくこととなります。子どもたちの変化や成長についても自然に意識し、一人一人の教員が学年の子どもたちのことを自分事として捉えるようになって考えます。また、保護者から次の担任に伝えてほしいことや引継いでほしいことについても、次の担任が同じ学年にいるわけですから、日常的に情報共有や引継ぎができます。

(Q 6) 生徒指導上の課題が起こったときの対応は大丈夫でしょうか？

(A 6) 生徒指導上の課題が起こったときに、さらに悪化したりエスカレートしたりする原因の一つに、担任が一人で抱え込んでしまい、発見や対応が遅れたりすることがあげられます。学年担任制では、複数の教員目で学級や子どもたちを見取することをねらいの一つとしていますが、一人の教員がもし気づけなかったとしても、別の教員たちが気づくことで、早い対応につながれると思います。また、その後の対応も、学年担当教員が自分事として課題を捉えることで、情報共有しながら知恵を出し合い、より効果的な対応につなげることができると考えます。

(Q 7) 個別懇談会はどのように行われるのでしょうか？

(A 7) その時の担任が行います。懇談の場で伺った内容は、学年担当教員で共有させていただき、対応が必要な場合は対応していきます。また、その時の担任以外の教員との懇談のご希望がある場合には、別日になりますが、日程を調整のうえ対応させていただきます。

(Q 8) 教員への負担が大きくなりませんか？

(A 8) これまでは、一人の教員が一つの学級の担任をし、一人の教員がほとんどの授業を教えていました。今回、学年担任制を導入することで、一人の子どもに複数の教員が関わることができるようになったり、若い教員とベテランの教員の経験の差をカバーしたりすることができ、子どもたちや保護者、教員の双方にメリットがあると考えています。

初めてのことで、初めは教員の負担があると思います。導入後に、子どもたちや保護者の皆様のご意見を伺い、検証し、よりよい形を作っていくことで、負担も徐々に軽減されていくものと考えます。

(Q 9) 学年担任制はこれからもずっと続けていきますか？

(A 9) 基本的には続けていく見通しです。ただし、このシステムで課題などが見られた場合、子どもたちや保護者、碧南市教育委員会からの意見や助言を受けながら改善を図っていく必要があ

ります。また、国や県、市の施策で改革が行われる場合も柔軟に対応していきます。いずれにしても、子どもたちの成長にどうつながったのか、成果と課題は何なのかを検証しながら、よりよい形を作っていくことが重要だと考えます。

6 今後について

児童及び保護者の皆様からのご意見・ご質問をふまえ、教職員で協議し、碧南市教育委員会の指導助言をいただいたうえで導入するかどうかを決めていく予定です。

7 この件についてのお問い合わせについて

ご意見・ご質問などにつきましては、令和7年2月20日（木）までに、学級担任または教頭、教務主任（電話 41-0993）までお知らせください。